



本当に豊かな社会を築く

北陸学院高等学校 2年 砂土居 真央

小学生の頃に参加したガールスカウトの活動を機に、国際ボランティアに興味をもった私は、将来は恵まれない国の子供達の為に働きたいと漠然と考えていた。しかし、カナダへの留学を経て自分がいかに無知で甘えていたのかを痛感した。

私は昨年の8月から1年間カナダの学校に留学した。その学校はクリスチャンスクールで1学年約20人ととても小さく留学生は私しかいない学校だった。最初の頃は想像以上に厚い言葉の壁や文化の違いに悩まされたが、次第に環境にも馴れ友人とも会話ができるようになった。そんな時海外から見た日本を知りたいと思

い、

「日本ってどんな国だと思う？」

と友人達に尋ねた。すると、何人もの友人がとても豊かで恵まれた国だと答えてくれた。その時私は素直に納得する事ができなかった。私自身、日本に住んでいて豊かだ、恵まれていると実感する機会があまりなかったからだ。私はカナダの友人に日本を語るにはあまりにも自分の知識が少ないと思い日本について調べた。

国の経済の力の目安となるGDPはアメリカ・中国に次いで世界第3位。女性は86歳、男性は80歳の平均寿命で世界1の長寿国。多くの人が衣食住に何1つ悩まず生活できる国、日本は間違いなく豊かで恵まれた国と呼ぶに相応しいだろう。

しかし私は疑問に思った。経済が豊かならば我々の心も豊かなのかと。

今世界では4秒に1人飢餓が原因で亡くなっていると言われている。その半数以上が5歳未満の子供達だ。日本では当然のように食べ物を残し大量の残飯を出す。東京はホームレスの多い地域世界トップ20に入り、日本の自殺率は世界1だと言われている。イジメや児童虐待などのニュースも毎日のように耳にする。私達は生活は豊かであるが、心の豊かさは伴っているのだろうか。

2011年3月11日。巨大地震と津波が東北地方を襲った。東日本大震災である。私は震災から3年目となる年をカナダで迎えた。聖書の授業ではみんなが日本の為に祈りを捧げてくれた。中には日本のために涙を流してくれた友達もいた。その時、何人もの友達に聞かれた。

「今被災地はどうなっているの？」

と。私は答える事ができなかった。なぜなら被災地が今どの様な状況なのか本当に分からなかったからだ。たった数100kmしか離れていない同じ国の出来事なのに、3年の月日の中で風化され遠い国の出来事となってしまっている。

そんな時、私は何気なく開いた携帯サイトで日本から遠く離れた国が東日本大震災の為に募金をしてくれた事を知った。その国の賃金はとても低く日本に比べるとはるかに貧しい国だった。しかし彼らは彼らの生活の中から貴重なお金を捻出して日本へ送ってくれたのだ。遠く離れた国から精一杯の心を送ってくれた人々と、他人の為に心から祈る事のできるカナダ人。自分の国の出来事なのにどこか他人事な日本。私は彼らに本当の豊かさを気付かされた。それは他人の痛みを心でよせ、一緒に歩いていく事ではないだろうか。

人の本当の豊かさを目で見える事はできない。それは形あるものではないからだ。私達自身を豊かにする事のまず第1歩は気付くという事ではないだろうか。困っている人を見過ごさず、1度立ち止まってみて自分が出来る事を考え実行し継続していく。1人1人の小さな1歩がみんなの大きな1歩となり日本を、そして世界を変える1歩になると信じている。私達は1人1人文化・宗教・信念が異なる。だが、自分だけ、自分達の国だけが豊かで平和であるという事はありえない。私達は、そして世界はつながっているのだから。